

### テモテへの手紙第一 3:1-7 教会の長老

今日もみ言葉に照らして健全な教会とはどのようなものか、そしてそれがどのように私たちの教会の規則案にどのように反映されているのかを見ていきたいと思います。今週と来週の説教ではテモテへの手紙第一 3章を見ていきます。この箇所は2019年に第一テモテの説教シリーズでも取り上げましたので、前回説教した内容と重複する部分もあるかと思いますがお許しください。今日の聖書箇所は第一テモテ 3:1-7です。教会の統治に関する説教の中で、教会の規則は教会のものであることを、また先週は、教会員に関する説教の中で教会とは何かをお話ししました。牧師、あるいは聖書でよく用いられている呼び名である長老が、聖書では教会のリーダーとして挙げられていることを指摘しました。この第一テモテの一節には、長老の資格が詳しく述べられており、教会におけるこの重要な役職を理解する助けとなります。

では第一テモテ 3章の1節から見ていきましょう。「1 次のことばは真実です。「もしだれかが監督の職に就きたいと思うなら、それは立派な働きを求めることである。」」つまりパウロはここで、「誰かが牧師になりたいというなら、それは良い仕事で、名誉ある仕事であることは間違いない。」と言っているようなものです。この後、パウロは英語でディーコン（執事）と訳されている別の言葉を使っていますが、ここで「監督」と訳されている言葉は聖書の中で牧師や長老を指す言葉の一つです。この先、長老と言う言葉を使いますが、これを牧師と同じ意味で使っていることをご承知おきください。同じ役職を表す異なる言葉があることを踏まえて、まずはお話ししている言葉の定義を確認しておきましょう。牧師という概念を表すギリシャ語には3つの言葉があります。一つ目はポイメンという言葉です。この語は英語のプasterという言葉の語源となった言葉です。これは文字通り羊飼いを意味する言葉で、イエスを示す言葉として何度も用いられています。エペソ 4:11 は教会の指導者のことを牧師あるいは羊飼いと呼んでいる唯一の箇所です。エペソ人への手紙 4:11-12 は「11 こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。」と言っています。ここでは牧師が担う教えるという役割が示されています。それは、御言葉を教えることによって、神ご自身について、また神の民に対する神のご計画と目的を正しく理解できるように優しく導くことです。これは説教を通して真理が宣べ伝えられるときだけでなく、クリスチャンがその人生における困難を乗り越えるのを助けるために聖書的な助言を与えるようなカウンセリングを通して行われます。教えられているのはクリスチャンであることに注目してください。牧師や長老は救われた人々、聖徒、を宣教のために備え、それらの人たちの宣教によってキリストの体を建て上げます。全てのクリスチャンと同じく、牧師も福音を宣べ伝えるよう命じられていますし、聖書に忠実な説教はイエス・キリストを指し示しますが、牧師は主に伝道者という訳ではありません。

牧師を表す言葉の二つ目はプレスブテロスです。これは長老と訳されている言葉で、この役職を指す言葉として聖書の中で最も多く使われている言葉です。テモテへの手紙第一 5:17 でパウロは「17 よく指導している長老は、二倍の尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのために労苦している長老は特にそうです。」と言っています。この箇所については後ほど別の観点でもう一度見たいと思いますが、ここで長老には有給の長老と無給の長老がいるように見受けられます。全ての長老が同等ですが、教会は常に説教と御言葉の教えを行うために召された長老に「二倍の尊敬」つまり報酬を支払うことが認められているようです。このことから、新しい規則の中では、教会に非職員の長老を正式に認めることを提案しています。彼らは主任牧師である私と同じくリーダーとしての職責を担いますが、教会の働きで生計を立てることはありません。なぜこのような区別が必要なのでしょう。それは聖書の至る所で長老はグループとして扱われているからです。長老は常に複数いるのです。第一テモテ 5:17 で「よく指導している長老」とあるのは既に見ました。使徒の働き 20:17 では、パウロが「教会の長老たちを呼び寄せた」とあります。パウロはまたテトスへの手紙 1:5 でも「私が命じたとおりに町ごとに長老たちを任命するため」と言っています。これらのそれぞれで一人の長老ではなく、複数の長老を指し

ていることに注目して下さい。ペテロの手紙第一 5:1 は「あなたがたのうちの長老たちに」と始まっています。ヤコブの手紙 5:14 でヤコブは「あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き」と言っています。同じ教会に属する複数の長老を指しています。使徒の働き 15:6 には「そこで使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。」とあります。これがエルサレムの教会の姿でした。今日、使徒はいませんが、各教会に長老たちがいるべきです。最後にピリピ人への手紙 1:1 には「ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。」とあります。この節でパウロは教会全体に挨拶し、次に監督または長老たちに、そして執事たちに挨拶をしています。監督と執事という役職が教会において特別な役職であったことが分かります。

3つ目の言葉はこの箇所でも用いられているエписコポスという言葉で、監督と訳されている言葉です。この言葉は過去には司教と訳されていました。この言葉は教会の指導者という意味では4回しか使われていません。牧師を表すのにこの言葉を使うことで、教会で牧師が果たすべき監督と言う権威機能があることを示しています。牧師は執事が望むことをただ行うため、あるいはいつも人々を喜ばせるために教会にいるのではありません。牧師の役割とは導くことです。それは王様や独裁者のようなものではなく、羊飼いのようなものですが、導く役割に変わりはありません。自信が導く会衆の権威の下にあるリーダーシップです。これらの言葉に似た名前を持つ教派が存在していることにお気づきかと思えます。プレスブテロスはプレスピテリアン、日本語では長老派と呼ばれます。エписコポスはエписコパリアンあるいはエписコパル、日本語では聖公会や監督派と呼ばれます。これらはそれぞれの言葉の理解に基づく、非常に具体的な教会統治をする教派です。エписコパル派の教会は、これら3つの言葉を教会指導者の異なる役職と読み替え、司祭や牧師が牧会する教会の集まりを監督する主教という役職を設けています。ローマ・カトリック、英国国教会、メソジスト教会はこのように解釈する代表的な教派です。このように解釈することが最善ではないというのが私の見解であることがお分かりいただけるでしょう。新約聖書においてこれら3つの言葉は同じ意味で用いられており、現代において一般的に牧師と呼ばれるただ一つの役職を指しているように見えます。実際、使徒の働き 20:17 でパウロはエペソの教会の長老たち（プレスブテロス）を招集して、28節ではその同じ人たちの事を監督たち（エписコポス）と呼んでいます。これらを教会内の異なる役職として見るのではなく、同じ役職の異なる役割として見ることができます。

さて、それぞれの語の定義を確認できたところで、長老についてパウロが語っていることに目を向けていきましょう。それは、私たちが長老に何を求めるべきかです。1節から見ていきましょう。「**もしだれかが監督の職に就きたいと思うなら、それは立派な働きを求めることである。**」まず見るべきは、それを望んでいるかです。私たちは召命に重きを置きがちですが、何度も申し立てますように、新約聖書ではこの後の箇所にも見られるよう賜物と望みに重きを置いています。望むだけでは不十分ですが、長老になるという立派な働きを成すためには、それを望まなくてはなりません。この規則が採用され長老職を設けることになったなら、長老になるとはどのような事かを知るために若い男性のためのトレーニングを継続的に行いたいと思っています。それは、彼らにとってそれが神の招きであるかを吟味することが出来るためです。2節に進みます。「**ですから監督は、非難されるところがなく**」これは長老の人生の特徴を要約するものだと言えるかと思えます。非難されるところがないとは、誰も非難することができないということです。これらの要件を見ると、まず、ここにある道徳的な要件は全て執事についても求められていること、そしてこれらは全て全ての信徒にも求められていることを理解する必要があります。私たちは牧師として求めるのはスーパークリスチャンではなく、すべての信徒に求められるのと同じ献身的な生活に尽くしている人なのです。

続けて「**一人の妻の夫であり**」とあります。これを非常に厳格に解釈し、決して離婚をしてはならないと捉えられてきました。どう判断するかはそれぞれの教会が決めるべきではありませんが、この聖句が本当に意味するところはそうではありません。これは、その文字通り「一人の女性に

一途な男性」という意味です。この聖句をどう判断するか考える上で、キリストに出会う前、私たち一人一人が罪人であったこと、またキリストに出会った後でも罪は私たちの人生に、また配偶者にまでも影響を及ぼし続けていることを忘れてはなりません。目指すのは、その人が人生のその時点でどのような状態にあるのかを見極める事にあるように思えます。ですから、過去に離婚歴がある男性であったとしても、それが救いの前であったのならなおさら、現在は一人の妻の夫として、一人の女性に一途な男であることは十分あり得ます。ただ、一時期に一人の妻という意味ではないことを明確にしておきたいと思います。他の面で多くの賜物を与えられていても、結婚や離婚の過去ゆえにミニストリーに加わる資格を失った男性もいるのです。この箇所を終える前に、長老についての記述で女性について言及されているのはこの事だけだということに注目してください。執事に関する教えの中で、パウロは女性に直接語りかけています。女性が長老として奉仕することは主要な問題ではなく、二次的なものでありますが、新約聖書において男性のみが長老として奉仕すべきなのは明確です。今回の説教では、このことについて簡単に述べるつもりでしたが、南部バプテスト連盟における決議が日本のキリスト教出版物を含め世界中で取り上げられましたので、来週別の説教の中でこのところについてお話したいと思います。

パウロは4つの言葉を続けました。「自分を制し、慎み深く、礼儀正しく、よくもてなし」パウロはお酒について次の節で言及していますが、ここで言う「慎み深く」とは軽率な行動をせず、過剰で攻撃的な反応をしないという意味です。次の言葉は「自分を制し」です。牧師の感情や行動がその人となりを凌ぐことはありません。他人を尊重する人です。また、他人をもてなすことを知っている人で、他を押しつけるのではなく、進んで人と関わり、家に人を招き入れるような性質を持った人でなくてはなりません。次に「教える能力があり」とあります。これは長老と執事の大きな違いです。既にエペソ人への手紙4章で、長老が牧者であり教師であることを見ました。牧師は神のみ言葉を正しく教えることができなければなりませんから、牧師になりたくても聖書を正しく教えることが出来ない人にはその資格がありません。ですが、テモテ第一5:17に戻ると、すべての長老が定期的に教えていた訳ではないことが分かります。「よく指導している長老は、二倍の尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのために労苦している長老は特にそうです。」パウロは次に、長老は酒飲みであってはならないと語っています。酒を飲んではいけないとは書いてありませんが、聖書では酔っぱらうことは常に咎められています。アルコールをコントロールできないということは、その人格に大きな欠点があるということで、その人を長老として検討する際に大きな懸念となるはずで、続けて、乱暴でなく、柔和で、争わずとあります。人と意見が合わなかったとしても、穏やかに謙遜であることはできます。長老は、口論や怒りに満ちた反論をしやすい人であってはなりません。長老の次の性質は、金銭に無欲であることです。私たちと同じように、牧師も生きるため、家族を養うためにお金が必要ですが、お金を使う人、お金を賢く扱う人、お金を愛する人には違いがあります。

次にパウロは牧師の家族に目を向けています。4、5節には「4 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人でなければなりません。5 自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会を世話することができるでしょうか。」とあります。この箇所にもいくつかの解釈があります。成人した子どもについてはどうでしょうか。その人の既に成人した子どもがキリストに従っていないとしたら、ミニストリーに携わる資格がないということでしょうか。妻が信徒でない場合はどうでしょうか。全ての状況に対して明確な答えがある訳ではありませんが、教会は検討している人が子どもをきちんと躡けているかどうかを見る必要があります。それは主観的な基準であり、祈りをもって判断されるべきですが、その理由は明白です。長老は教会内で管理責任を果たすべき人であり、自分の子どもさえ管理できない人が自分の意思や意見を持った大人たちが集う教会をどうやって導くことができるのでしょうか。このことについて、執事についてはわずかではありますが大きな違いがあります。テモテへの手紙第一3:12は「12 執事は一人の妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。」と言っています。執事には教会の世話について言及されていないことが重要です。9 Marks に掲載された執事についての記事の中で、ベンジャミン・マークルはこのことについて

「執事には教会を管理したり指導したりする立場を与えられていない。そうした役割は長老にある。」と述べています。

パウロはその資格について6節と7節でこのように終えています。「6 また、信者になったばかりの人であってははいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないようにするためです。7 また、教会の外の人々にも評判の良い人でなければなりません。嘲られて、悪魔の罠に陥らないようにするためです。」牧師の資格を失うと、多くの長老や牧師が不名誉な辞職を強いられます。これらの最後の要件があるのはこのためです。牧会を始める事のみでなく、最後までその務めを果たすことが重要なのです。私たちには辞めない長老が必要です。この世のものに捕らわれず、私たちを永遠の命に召してくださる神の永遠の栄光と言う自分たちが目指すところを見失わない長老が必要なのです。ですからパウロは、長老にすることを検討している人について、キリストに従ってきた歩みを見るようにと言っているのです。みなさんは教会として、YIBCの長老として私の事を吟味する機会があったように、長老の候補となる人たちを吟味することになります。その人がキリストに従っているかを判断するのは皆さんの責任です。なぜなら、究極の大牧者でおられるのはキリストであって教会の長老たちではないからです。ヘブル人への手紙 13:20 は明確にこのように言っています。「永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が」イエス・キリストが真の大牧者であり偉大な羊飼いであるという認識をもって立て上げられない限り、地上に置かれるどんな組織も上手くいきません。私たち皆が偉大な羊飼いであるイエス・キリストを救い主として、主として真に従うときのみ、教会は正しく機能することができるのです。教会を確立し、建て上げ、指導者を育て、ご自分の血によって教会の部分である全ての人を買い取られたのはキリストです。教会には長老たちが必要です。最終的な決定権は会衆にあります。神はご自身の群れを導くために長老を置かれます。ですが、私も YIBC が選ぶ他の長老たちも、教会の真の所有者を見失わないよう神から課せられます。信徒の働き 20:28 では長老に対して「あなたがたは自分自身と群れの全体に気を配りなさい。神がご自分の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、聖霊はあなたがたを群れの監督にお立てになったのです。」と言っています。これは一人の人間には大きな召しであり、私の祈りと願いは、YIBC がこの横浜の血において神の御業を監督する長老として、教会の他の男性の人生の中に神の働きを認める会則を採択することです。今日の説教を終わりに、再び聖餐式に与り、私たちが教会として存在する理由、つまり主イエス・キリストがご自身の血と肉をもって私たちの救いを買って下さった十字架の犠牲を覚えます。イエス・キリストを主であり救い主として受け入れておられ、洗礼を受けられた方は主の晩餐に共に与ってください。もしまだキリストを救い主として受けておられなかったり、洗礼を受けておられない方は聖餐式に与ることをお控え下さい。保護者の方々は、まだ準備ができていないお子さんを聖餐式に与らせないことで、この礼拝行為の意義をお子さまにお教えいただければと思います。私が祈った後、執事が教会堂の四隅でパンとジュースをお配りします。その後で共に晩餐に与りましょう。祈ります。

## 1 Timothy 3:1-7 The Elders of the Church

Today we are continuing to discuss what a Healthy Church looks like in light of the Scripture and how this fits in with our proposed Constitution. For this week's sermon and next week's sermon we will be in 1 Timothy chapter 3. I preached on this passage during the series on 1 Timothy in 2019, so please bear with me if I say some of the same things I said when I first preached on this. We will use 1 Timothy 3:1-7 as the base text for this message today. I said in the sermon on church government that the rule of the church belonged to the congregation, and then we addressed what the congregation is in the message on church membership last week. I pointed out that the Scripture identifies Pastors or the most common Biblical word, Elders, as the leaders of the church. This passage in 1 Timothy addresses at length the qualifications for Elders and helps us understand this important office in the church.

Let's start with verse 1 of 1 Timothy 3. **The saying is trustworthy: If anyone aspires to the office of overseer, he desires a noble task.** Basically, Paul is saying here, "you can trust me on this, if anyone wants to be a pastor, he wants a good and honorable job!" Later on in this text, Paul will use another word translated Deacon in English, but this word here translated "overseer" is one of the words that is used to describe Pastors or Elders in the Bible. From here on out, I will use the term Elder, but understand that I am using that term as being interchangeable with Pastor. Given these different words for the same office, **let's first define the terms we are talking about.** There are three words in Greek that the idea of pastor come from. **The first is Poimen.** This word is the word where we get Pastor from. The literal meaning is shepherd and it is used to describe Jesus many times. Ephesians 4:11 is the only place where we see the leader of the church called a pastor or shepherd. [Ephesians 4:11-12 says, 11 And he gave the apostles, the prophets, the evangelists, the shepherds and teachers, 12 to equip the saints for the work of ministry, for building up the body of Christ.](#) This verse shows us the teaching role that shepherding involves. It is tender leading to proper understanding of God and his plans and purposes for his people by teaching the scripture. This happens from the pulpit as the truth is proclaimed, but it also happens in counseling as Biblical advice is given to help Christians overcome challenges in their lives. Notice it is Christians they are teaching. Shepherds or Elders are Equipping the Saints -saved people- for ministry, whose ministry then builds the body of Christ. The Shepherd is not primarily an evangelist, although like every Christian, every Pastor is called to proclaim the gospel and every scriptural sermon that is true to the Bible points to Jesus Christ.

**The second word that describes what we many times call Pastors is Presbuteros.** This is the word translated elder and is the most often used word in the Bible for this office. In [1 Timothy 5:17, Paul says, "Let the elders who rule well be considered worthy of double honor, especially those who labor in preaching and teaching."](#) I want to look again at this verse in a different light later on, but it seems to show the idea that there may be paid and unpaid elders. All the elders are on the same level, but the church could be paying – giving double honor – to the one they have called to do the regular preaching and teaching of God's Word. This is why in the new Constitution, I am proposing that we formally recognize Lay Elders within the church. They will serve as Elders with the same leadership authority that I carry in the office as the Senior Pastor, but would not make their living from the church. Why is this even a necessary or important distinction? Because everywhere in the Bible you see Elders, you see them addressed as groups. There are always **multiple Elders.** We have already looked at [1 Timothy 5:17, 17 Let the elders who rule well...](#) In [Acts 20:17b Paul ...called the elders of the church to come to him.](#) Paul also tells Titus in [Titus 1:5b to appoint elders in every town as I directed you.](#) Notice that is multiple, not single Elders, in

each place. 1 Peter 5:1 begins, “So I exhort the elders among you…” In James 5:14, James says, “14 Is anyone among you sick? Let him call for the elders of the church… Notice he is calling multiple elders from the same church. In Acts 15:6 we read, “6 The apostles and the elders were gathered together to consider this matter.” This was the church at Jerusalem. There are no apostles today, but there should be Elders in each church. Finally, in Philippians 1:1 we read, “To all the saints in Christ Jesus who are at Philippi, with the overseers and deacons…” You see here in this verse Paul greeting the church as a whole, then the Overseers or elders- notice more than one- then the Deacons, which show both of the special offices in the church.

**There is a third word and the one that we see in this passage, Episkopos – the word here for overseer.** Sometimes in the past this word has been translated bishop. This word is only used only 4 times in relation to leaders in the church. By using this word for a pastor, it shows that there is an authoritative oversight function that pastors do perform in the church. A pastor is not at a church to simply do whatever the Deacons want or to make people happy all the time. The pastors role is to lead. That leadership is as a shepherd, not a king or dictator, but it is leadership. It is leadership under the collective authority of the congregation that he leads. You may have noticed these words bear similarities to some denominational names – presbuteros, Presbyterian. Episkopos, Episcopalian or Episcopal. These are really specific forms of church government based on an understanding of those words. Churches that adopt an Episcopal form of government read these three words as different offices of church leaders and have come up with offices of Bishop to oversee groups of churches that are then led or pastored by priests or pastors. Roman Catholic, Anglican, and Methodist Churches represent the groups that interpret it this way. You can tell that is not how I am saying they are best interpreted. All three of these words are used interchangeably in the New Testament, and seem to speak of just one office that we have in modern times generally called, Pastor. In fact in Acts 20 verse 17 Paul calls together the elders (presbuteros) of the church at Ephesus, but then in verse 28, he calls that same group of men, overseers (episkopos). There is no need to view them as different offices within the church, but as different roles of the same office.

Now that we have defined the terms, we can see Paul’s main point about Elders, which is this – **What should we look for in Elders?** Let’s start at verse 1, “**If anyone aspires to the office of overseer, he desires a noble task.**” There is the first thing to look for – desire. We put lot of emphasis on calling, but the New Testament, as I keep saying, puts the emphasis on gifting, desire and as we will see in the next several verses, character. Desire is not enough, but it should be there to serve in this “noble task” of being an Elder. One thing I would like see if we adopt the Constitution and have elders is to have ongoing training for young men to explore what it means to be an elder, so they can see if this is God’s call for them. Let’s go on to verse 2 **2 Therefore** [because this is such an important task] **an overseer must be above reproach**… This is what I would say summarizes what should characterize the life of the Elder. To be above reproach means that no one can bring an accusation against you. As we look at these qualifications, we need to understand first that all of the moral requirements in these verses also describe Deacons and secondly they are the same expectations for all believers. We are not looking for super Christians as pastors, but those who demonstrate the same committed lifestyle required of all believers.

The verse continues, **the husband of one wife**… Now, this has been interpreted very strictly to mean no divorce…ever. Each church has to decide for themselves what to do with this, but that is not really the meaning of this verse. It literally means “**a one-woman kind of man.**” In thinking through what to do with this verse, we have to remember that before Christ,

each of us was a sinner, and even after Christ, sin still affects each of our lives, and even our spouses. The goal seems to be to examine the man for where he is at that time in his life. So, even a man with a divorce in his past, especially one that happened prior to salvation can definitely still be living currently as the husband of one wife and a one woman kind of man. Let me also say that this does not say or mean one wife at a time. There are men who have disqualified themselves from ministry no matter how gifted they are in any other way, because of their history of marriages and divorces. Before we leave this section, notice that this is the only mention of women in the section on elders. In the teaching regarding Deacons, Paul will directly address women. I want to be clear that while women serving as elders is a secondary and not a primary issue, it is clear in the New Testament that men only should serve as elder. I was going to simply address that in this sermon, but due to the votes that occurred at the Southern Baptist Convention that made news around the world including Japanese Christian publications, I will address it in a separate sermon next week.

Paul continues with four words, **sober-minded, self-controlled, respectable, hospitable**, Paul will deal with alcohol in the next verse, this use of sober-minded means to be free from rash or excessive and aggressive response. The next word is self-controlled. The Pastor's emotions and actions do not get the best of him. He is a person who respects others. He is also to be someone who knows how to be hospitable to others, who doesn't push others away but has a personality that is willing to engage with others and even invite them into his home. Next we see the description, **able to teach**... This is a key difference between Elders and Deacons. We have already seen from Ephesians 4 that the Elder is a shepherd-teacher. The Pastor must be able to accurately teach the Word of God, so any man who wants to be a pastor but cannot accurately teach the Bible is not qualified. Going back to **1 Timothy 5:17**, it is clear that not all the Elders taught on a regular basis, though. **"Let the elders who rule well be considered worthy of double honor, especially those who labor in preaching and teaching.** Paul then tells us that the elder is not to be a **drunkard**. It doesn't say he can not drink, but getting drunk is always condemned in scripture. Someone who cannot control alcohol is showing a great flaw in his character that should be serious concern for considering that man as an elder. He continues, **not violent but gentle, not quarrelsome**... We can disagree with people and still be gentle and humble in that disagreement. An elder should not be a person prone to arguing and angry disagreements. The next character trait of an elder is to **not [be] a lover of money**. Just like all of us, a pastor has to have money to live and to provide for his family, but there is a difference between a user of money or even a wise handler of money and a lover of money.

Next Paul turns to the Pastor's family. Verse 4 and 5 says **4 He must manage his own household well, with all dignity keeping his children submissive, 5 for if someone does not know how to manage his own household, how will he care for God's church?** This verse can be understood in several ways as well. What about adult children? If a man's adult children are not following Christ, is he then disqualified from ministry? What if his wife is not a believer? I'm not sure that there is a clear cut answer to every situation, but each church does have to judge whether the man they are considering is disciplining his children well. This is a subjective standard that should be prayerfully judged; but the reason for it is very clear. The Elder is one who is to exercise management responsibilities within the church, and if he cannot even manage his children, how can he lead a church of adults with wills and opinions of their own. There is small but significant difference in how this is addressed with Deacons **1 Timothy 3:12 simply says, 12 Let deacons each be the husband of one wife, managing their children and their own households well.** It is important to note the lack of mention of care for church with the Deacons. In an article from 9 Marks on Deacons,

Benjamin Markle rightly pointed out that this shows that “Deacons are not given a ruling or leading position in the church – that function belongs to elders.”

Now Paul finishes the qualifications with these remarks in verse 6 and 7, **6 He must not be a recent convert, or he may become puffed up with conceit and fall into the condemnation of the devil. 7 Moreover, he must be well thought of by outsiders, so that he may not fall into disgrace, into a snare of the devil.** Many elders and pastors resign in disgrace after disqualifying themselves from pastoral ministry. This is the reason for this final qualification. It is important to finish strong in Pastoral ministry, not just start strong. We need elders who will not quit, who will not get caught up in the things this world has to offer and lose sight of the goal they are working towards – the eternal glory of God who is the one who calls us all to eternal life. So, Paul says, test the man who you are examining to be an elder to see a history of following Christ. You as a church will be involved in examining candidates for Elder in the same way you had the opportunity to examine me as an elder for YIBC. It is your responsibility to determine if that man is following Christ, because it is Christ who is the ultimate Great Shepherd, not the elders of the church. **Hebrews 13:20 says this clearly, Now may the God of peace who brought again from the dead our Lord Jesus, the great shepherd of the sheep, by the blood of the eternal covenant.** No structure we set up on earth will succeed unless it is put in place with the recognition that Jesus Christ is the real Senior Pastor, the Great Shepherd. The church can only function well when all of us are truly following our Great Shepherd Jesus Christ as Savior and Lord. It is Christ who established the church, who builds the church, who raises up church leadership, and purchased everyone who is a part of his church by shedding his own blood. The church needs elders. While the congregation has the ultimate say, God intends there to be elders to lead God’s flock. But I and any other elder YIBC chooses are charged by God to never lose sight of who truly owns the church. **Acts 20:28 says to elders, Pay careful attention to yourselves and to all the flock, in which the Holy Spirit has made you overseers, to care for the church of God, which he obtained with his own blood.** This is a bigger call than one man, and my prayer and desire is to see YIBC adopt a Constitution that will recognize God’s work in the lives of other men in the church to be elders who oversee the work of God on this hill in Yokohama. Today as we close, we will once again gather around this table of communion and remind ourselves of the reason we even exist as a church, the sacrifice of our Lord Jesus Christ on the cross, who bought our salvation with his own flesh and blood. If you have accepted Jesus Christ as your Lord and Savior and have been obedient in baptism then I invite you to join in this Lord’s Supper meal today. If you have not followed Christ as your Savior or been baptized, I would ask you to refrain from partaking in the elements. For parents, you teach your children the significance of this act of worship by not allowing children to participate who are not ready. After I pray the Deacons will serve the elements from the 4 corners of the sanctuary, then we will eat and drink the elements together. Let’s pray.